おんがく広場 第129号

令和3年（2021）4月26日（月）

発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一

Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊　連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

新年度はすべての行事を進めたい
全日本合唱連盟・岸信介理事長
新年度メッセージ

全日本合唱連盟は4月12日、下記のような新年度の理事長メッセージを公開しました。

コロナ禍のなか、全日本合唱連盟の行事をすべて進めていきたい。昨年はすべての事業を中止しました。苦渋の決断でした。合唱は私たちが生きていくための大きな栄養であり、なくてはならないものです。

多くの文化活動が中止せざるをえなくなるなか、全日本合唱連盟の事業を前向きに進めてゆきます。練習場所の確保、メンバーの確保にご苦労されていると思いますが、どうか頑張って乗り切っていただきたい。全日本合唱連盟のガイドラインをうまく利用してほしい。（中略）みなさん、コロナに負けないでステージでお会いするのを楽しみにしています。

「さいたま合唱ニュース」で紹介されました ☛

埼玉県合唱連盟発行のニュースに『おんがく広場』が紹介されました。

発行当時を振り返ると未知のウイルスに怯えながら、音楽・合唱活動はどうなるのか、いつになったらふつうの生活がやってくるのか、右往左往していた気がします。

しかし、時とともに様々な知見が生まれ、いたずらに恐れるだけでなく『**正しく恐れる**』ことを身に着けられるところまでたどり着きました。これからも細心の注意を払って演奏活動を続けましょう。

『おんがく広場』もそろそろ方向転換か！

この情報誌は、昨年4月10日第1号発刊以来1年が経ち、多くの音楽家・合唱人のご協力を得て、新型コロナウイルス感染症に対してどのように対処すればよいか、先行きが見えない不安の中で、できる限りの情報を発信し、皆様とともに悩みながら考えてきました。今では様々な実験結果に基づいて、適切な対策をとればステージを作り上げられる状況になっています。これからは多くの実績やガイドラインに沿って音楽活動を展開できるはずです。

(6)　さいたま合唱ニュース　第 54 号

『おんがく広場』はこうして生まれた！

男声合唱プロジェクトYARO会＆男声合唱団コール・グランツ　加藤　良一

日本で初めて新型コロナウイルス感染症が発表されたのは、令和２年１月でした。その後、瞬く間に蔓延し、４月７日緊急事態宣言が出されると、世の中のあらゆる活動は中止を余儀なくされてしまいました。もちろん音楽活動も例外ではなく、とくに音楽を生業としている専門家にとっては大変な痛手となりました。

指揮者の武田雅博さんがfacebookに「**フリーランス音楽家の悩み**」と題するメッセージを投稿されたのは、それから間もない頃でした。その主旨は、今や自粛要請で合唱愛好家は大変な状況にあるが、それ以上にフリーランスの人達は、生活が懸かっており大変厳しい事態に追い込まれていることに思いを致して欲しいという熱いメッセージでした。

「皆さんにお願いがあります。合唱の先生は、いったいどうしているでしょう。想像してみてください。もしも先生が合唱指導や演奏活動だけで食べている、フリーランスのプロの合唱指揮者なら…。もしも先生が若手の合唱指揮者なら…。先生が大金持ちの息子、娘なら心配無用です。しかし現実は…３月中旬あたりから収入はゼロ。今後の見通しは立たず。家賃をはじめ経済的に追い詰められている頃なのではないでしょうか。僕くらいの年代になると、多少なりとも蓄えもあり、何とか生きていけますが、若い合唱指揮者たちが心配なのです！　今、彼ら彼女らを経済的に救えるのは、皆さんしかいないと思うのです。」

このメッセージに私は打たれました。合唱愛好家も苦しい。しかしフリーランスの音楽家はそれ以上の苦境に立たされていました。合唱文化を絶やさないために何かできないか。そんな思いが『おんがく広場』発行のきっかけとなりました。しかし、発信するにしてもfacebookやtwitterなどのSNSをやらない方々にどうやって伝えるか、必ずしもネット環境を使える方ばかりではありません。また、SNSは一般に画像しかアップできない上に、画像では新聞のような小さい文字はよく読めません。しかし、それをPDFにすればきれいに見えます。

そこで、画像とPDFの２種類を作り、SNSには画像を、私のホームページには両者を掲載しどちらも見られるようにしました。PDFを紙にコピーし団内などで配布して頂けば、ネットができない方にも伝わりやすくなると考えたのです。実際そのように活用しているとの声も届いています。創刊から８か月で121号にまで達し、70名ほどの方々に執筆頂きました。改めてお礼を申し上げます。

『おんがく広場』に大きな影響を与えたものがもうひとつあります。それは４月25日に立ち上げられた、facebookの公開グループ「**ポストコロナの合唱活動を考えよう**」です。仙台の指揮者・千葉敏行さんが管理人となって運営していますが、瞬く間に1500人以上のメンバーが集まり、コロナ禍での合唱活動に対して様々な情報が交換されるようになりました。１月現在2200人超が登録しています。これをお読みの皆さんもぜひご参加ください。

おんがく広場 第74号
令和2年(2020) 8月8日(土)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

「ハーモニー」楓創刊50年

全日本合唱連盟会報「ハーモニー」が創刊から 50 年を迎えました。おめでとうございます。

創刊号は1971年10月1日発行。本文は縦組み、B5版32頁でした。「ハーモニー」は完聚(1970年5月30日発行の「全日本合唱連盟会報」(第1号)では「設立総会報かる」と題し、同年4月5日に33の正会員によって連盟が設立されたことを報じています。

JCA ユースクワイア、合唱指揮セミナーなどの事業を展開しています。

また全日本合唱連盟が都道府県レベルとなり国際合唱連合を設立し、外国との交流にも力を入れています。

今号のトピックス欄で、このおんがく広場」が情報交換の場として紹介されました。「日刊ポーズ」が大変参考にしています。

第1号が1971年10月1日発行、本文は縦組み、B5版32頁でした。「ハーモニー」は完聚(1970年5月30日発行の「全日本合唱連盟会報」(第1号)では「設立総会報かる」と題し、同年4月5日に33の正会員によって連盟が設立されたことを報じています。(?)

コロナ禍を乗り切る情報交換の場「おんがく広場」

合唱活動が思うようにできないから、知恵を出し合ってなんとかしようという動きが各地で出てきています。そういう人々の情報交換の場を作ろうと、元福生市議会議員の加藤良一さんがホームページ上で始めた「おんがく広場」。私（武田）も寄稿を頼まれ、合唱の現状を伝えるべく、自宅でできる基礎的なトレーニング、リモート合唱など紹介した。合唱だけでなく、民衆音楽など他の分野の音楽家の方も幅広く紹介しています。

第1号が1971年10月1日発行、本文は縦組み、B5版32頁でした。「ハーモニー」は完聚(1970年5月30日発行の「全日本合唱連盟会報」(第1号)では「設立総会報かる」と題し、同年4月5日に33の正会員によって連盟が設立されたことを報じています。

「ハーモニー」は完聚(1970年5月30日発行の「全日本合唱連盟会報」(第1号)では「設立総会報かる」と題し、同年4月5日に33の正会員によって連盟が設立されたことを報じています。

「ハーモニー」は完聚(1970年5月30日発行の「全日本合唱連盟会報」(第1号)では「設立総会報かる」と題し、同年4月5日に33の正会員によって連盟が設立されたことを報じています。

『おんがく広場』→
http://www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/
『ポストコロナの合唱活動を考えよう』→
https://www.facebook.com/groups/222840199011862